

# 大学生へのメッセージ

環境・食・教育を  
科学する

足枷をとる教育  
の提言

すぐれた脳を  
創る



日本科学振興財団 評議員

## 門馬 登喜大氏

### 【略歴】

1953年福島県生まれ。二十余年間教育分野に従事し、その後環境問題が人体に及ぼす影響や様々な病気や障害の対処法を学ぶために、アメリカ・シアトルに留学。ワシントン大学で環境科学、環境医学を聴講後、バステリア大学でアーユルヴェーダ医学(インド伝統医学)を学び、アーユルヴェーダ・プラクティショナー(AYU認定)の資格を取得。引き続きアーユルヴェーダの研究を進めると同時に、国連DEVNET顧問、日本科学振興財団評議員、富山県国際伝統医学センター参与として勤務している。

### 【著書・関連図書】

「統合医療—基礎と臨床」日本統合医療学会 編集。  
「自然療法医学」執筆  
「JACT vol.4」日本代替・相補・伝統医療連合会議編集  
「自然療法医学—患者・医療従事者に福音を齎す」執筆  
「起業と知的財産」vol.421  
「子どもはみんな天才。みんなが宝物」記事  
ほか多数

### ◆お問合せ先◆

千葉商科大学 学長事務室  
E-mail: p-office@cuc.ac.jp  
TEL: 047-372-4111(代)  
平日9:00~17:00 土曜9:00~15:00(日曜・祝日を除く)

脳細胞は再生されない—という、かつての常識が覆され、脳に刺激を与え、十分な栄養を与えることで、脳神経細胞は活性化し、新しく生まれるということがわかりました。では具体的に、どのような栄養が脳を効果的に活性化し、どのような学習、生活、運動が「脳力」を高めるのに役立つのでしょうか。

今回、環境科学、環境医学、アーユルヴェーダ医学の立場から、「脳力」を高めるための方法をご紹介します。

### ● 子供たちに関わる問題点

#### ・健康に関わる環境問題

大気汚染、水質汚染、オゾン層破壊(CFCの問題)、表土の汚染(農薬、化学肥料の問題)、表土の汚染(Top Soilの問題)、遺伝子組み換え(GMO)食品の問題、環境擬似ホルモン(食品、生活用品中の人工化学物質)の影響、発癌性物質の問題

#### ・特定疾患(日本)の増加、Rare Diseases(米国)の意味するもの

#### ・考えられる環境問題と疾患の相関関係

#### ・子供たちの諸問題

LD,ADHD,AUTISM, 登校拒否、過・拒食症、引きこもり、ニート、MENTAL DISEASE

#### ・食の問題

食育、マクロバイオテック

### ● 子供たちの能力をいかに引き出すか

#### ・教育とは

Educate, Extract, スウェーデンの例

#### ・能力の限界?

ダウン症、幹細胞

#### ・評価法(Evaluation)の問題

対象は? 北欧の小・中

#### ・勉強好き・本好きになる・させるコツ

#### ・共有する時間を持つ

反抗期の対応?

#### ・認める、褒めること

潜在能力を支持

#### ・偏差値・受験教育の功罪

勉強の本質

全学教員  
対象

# 10月26日(月)

時間 15時00分~17時00時

場所 千葉商科大学

1号館 1101教室

新幹線の中で、千葉商科大学学長の島田晴夫先生と同行させていただいた際に、私の方からあるお願いをしました。日本科学振興財団から発行している「No421企業と知的財産」に掲載した10ページ足らずの記事「子どもはみんな天才。みんな宝物」を是非読んでいただきたいと。私が23年間に亘り教育関係の仕事に従事してきた要諦を紹介したものです。ご意見・ご批判を仰ぎたいと申し添えました。島田先生は小泉内閣時に経済顧問として国政にも携わってこられた方で同時に教育に対する並々ならぬ熱意を持っておられる方です。慶応義塾大学をかつてない優秀な成績で卒業されたときにも将来は教育に関わる仕事と考えられて大学院に進んだと聞いています。先生は色つきのラッシュンペンを取り出され丁寧に読み始めました。読後、「できれば私の大学で教育講演をしてもらえないか？もちろん学生の前でやって欲しいがその前に教員の前でできないか？」というお言葉を頂きました。

2009年10月26日、月曜日午後3時から5時、千葉商科大学1号館1101教室で、全学教員対象「大学生へのメッセージ」—環境・食・教育を科学する一足枷を取る教育の提言—すぐれた脳を創る…全学FD講演会を行いました。内容は、

#### 1. 子供たちに関わる問題点、

- ①健康に関わる環境問題—大気汚染、水質汚染、オゾン層破壊（CFCの問題）、表土の汚染（農業、化学肥料の問題）、表土の汚染（Top Soilの問題）、遺伝子組み換えの（GMO）食品の問題、環境疑似ホルモン（食品、生活用品中の人工化学物質）の影響、発癌性物質の問題、
- ②特定疾患（日本）の増加、Rare Diseases（米国）の意味するもの ③考えられる環境問題と疾患の相関関係
- ④子どもたちの憂うべき諸問題—LD（学習障害児）、ADHD（多動児）、AUTISM（自閉症）、登校拒否、過食・拒食症、ひきこもり、ニート（NEET=Not in Employment, Education or Training）、Mental Disease
- ⑤食の問題—食育、マクロビオテック

#### 2. 子供たちの能力をいかに引き出すか

- ①教育とは—Educate, Extract, スウェーデンの例 ②能力の限界？—ダウン症、幹細胞
- ③評価法（Evaluation）の問題—対象は？北欧の小・中学 ④勉強好き・本好きになる・させるコツ
- ⑤共有する時間を持つ—反抗期の対応 ⑥認める・褒めること—潜在能力を支持
- ⑦偏差値・受験教育の功罪—勉強の本質

これらを、2時間の中でお話させて頂きました。その時の様子を島田学長がご自身のブログで紹介しています。

<島田春雄学長ブログから>

#### ■2009年11月01日門馬登喜大先生のFD講演会

10月26日に、門馬登喜大先生によるFD講演会が本学で開催されました。

本学は他の多くの大学と同様に、教育面で大きな課題に直面しています。それは大学全入時代になり、入学するのに競争がなくなったことから、何かを獲得する力が弱い学生がだんだんと増えており、大学はこのような学生たちを活力のあるしっかりとした人材に育てていくという課題に直面しています。

門馬登喜大先生は、若い時代に20年ほど学習塾のような教育に携わられた後、心身に障害のある子供の能力を最大限に引き出す教育に成功したアメリカのユニークな教育者の実践を知りました。子供たちの才能を信じて、それを最大限に引き出す教育をしたいと考えて努力をしているうちに、次第に子供たちの生活や摂取する食べ物や環境汚染、社会環境、情報環境などの問題の影響に興味を深め、やがていわゆる統合医療あるいは自然療法の専門家になりました。

そのような医学的背景と教育者としての情熱をもたれたユニークな先生なので、私どもが直面している問題に貴重な示唆をいただけるのではないかと本学にお招きしましたが、現代の教育界が直面している問題を総合的に見事に分析され、その中でも子供の才能を飛躍的に引き出していく教育者のあり方について、大変有益な提案をしてくださいました。

会場は熱気に包まれ、先生の講演の余韻がいつまでも残った印象的な講義でした。これからの私どもの教育に、先生の貴重な示唆が活かされていくことを期待したいと思います。

